

# ウメモト インフォメーション

引用：日経／化学工業／燃料油脂／新聞展望／他（ ）

2020年 11月 4日

担当者：若崎

シェル

## 石油精製拠点を再構築

### 機能化学品事業を拡大

シェルは石油精製と化学工場を再構築する。14の精製拠点を6カ所の化学品との統合生産拠点に集約する。原料確保の優位性に優れるシンガポ

ールや中国などの6カ所の化学品単独の生産拠点も保持する計画。大きく変化する石油製品の市場環境に対応して精製拠点の競争力を高め、同時に

化学品事業の強化につなげるのが狙い。具体化の時期については明らかにしていない。石油精製拠点は米テキサス州ディアパーク、米

ルイジアナ州ノルコ、加アルバート州スコットフオード、蘭バーニス、独ノルトラインウエストフアーレン州ライオンラン

ト、シンガポール・ブコム島に集約、化学品生産との統合効果を最大化していく。さらに化学品だけを生産する蘭モタイク、スコットランド・ファイフ、シンガポール・ジュロン島、米ルイジアナ州カイスマー、中国の広東省惠州市とともに、建設が進んでいる米ベンシルベニア州の設備を通して供給体制を万全にする。6拠点のうちファイフでは工

場を再編する意向を示していた。第3四半期の業績発表に際して、再構築の具体的な内容を明らかにしたもので、カソリンやジェット燃料などの市場を取り巻く環境が変化するなか、化学を成長事

業に位置づける意向を明確にしたと判断できる。とくに機能化学品の拡大を目指しており、溶剤やポリオールなどを今後の成長の基盤にするものとみられる。同社の第3四半期の純利益は前年同期比92%減の4億8200万ドルにとどまる一方、化学事業は同31%減の1億3100万ドルを計上している。

## OPECとロシア、減産拡大を検討 来年の早い時期に＝関係筋

【ロンドン 3日 ロイター】 -石油輸出国機構（OPEC）とロシアが石油市場の強化に向け、来年の早い時期での減産拡大を検討していることが、OPEC・ロシア双方の関係者の話で分かった。

OPEC加盟国とロシアなど非加盟国で構成される「OPECプラス」は日量770万バレルの減産幅を来年1月に200万バレル縮小する予定。ただ、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）に伴う制限措置がエネルギー需要に影響を与えているため、再考を迫られている。

ロシアの関係者は匿名で「第1・四半期には減産幅を拡大しなければならないようだ」と指摘。OPEC関係者は、現行の減産幅の延長以外の選択肢が模索されているとした上で、減産拡大はOPECプラス以外の産油国の市場シェア拡大につながるため「難しい選択」になると語った。

これに先立ち、OPEC加盟国のアルジェリアは、OPECプラスが来年1月から予定する減産縮小について、先送りを支持する意向を示した。

OPECの議長国を務めるアルジェリアのアタール・エネルギー相は、国营通信社APSに対し、原油価格が再び崩壊するのを避けるため、来年初めに数カ月間にわたり減産を延長する案を支持すると述べた。

また、新型コロナウイルスの感染第2波は、石油市場が「非常に危険な」状況に直面していることを意味すると話した。

# ウメト インフォメーション

2020年 11 月 5 日 担当 小松

## セバシン酸、4000ドル割れも

### 原料の供給改善など

セバシン酸の国際市況が1ト当たり4000ドルを割り込む可能性が出てきた。新型コロナウイルス流行による中国以外の自動車減産で、日米欧を中心に実需が縮小。主産地中国で各社の稼働率が

引き上げられたこともあって、供給がたぶつき気味となっている。原料ヒマシ油の相場が踊り場を迎えていることもあって、市況は当面停滞すると予想されている。セバシン酸は中国の供

給が大半を占め、ヒマシ油の供給をインドに依存している。インドではロックダウン（都市封鎖）により数カ月間ヒマシ油供給が停止。セバシン酸は一時5000ドル近くまで跳ね上がった。しかし、ロックダウン緩和で初夏から原料供給が改善するとセバシン酸の買いが縮小。中国勢が稼働率を引き上げたもの

の、コロナ禍で日欧米などが自動車を減産した。これにより4000ドルを割り込む可能性が出ている。ヒマシ油は前季収穫分の在庫が消化し切れていないようだが、売り惜しみなどで小幅高となった。しかし、今季分の収穫が年末から始まるため上値が重くなるとみられる。

## 国産ナフサ、2割上昇 7～9月 需要回復で2四半期ぶりに値上がり

環境エネ・素材

2020/11/4 18:26 | 435文字 [有料会員限定]

保存 共有 印刷 他 SNS その他

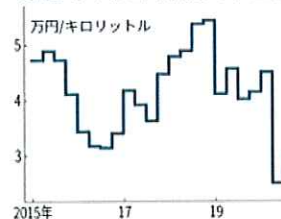
合成樹脂など石油化学製品の基礎原料となるナフサ（粗製ガソリン）の国産価格が上昇した。7～9月期は1キロリットル3万200円と、4～6月期に比べ5200円（20.8%）高い。値上がりは2四半期ぶり。新型コロナウイルス禍から経済の立ち直りが早かった中国で石化需要が回復し、ナフサ価格も上昇したことを映した。

国産ナフサの価格は四半期ごとの平均輸入価格に連動して決まり、合成樹脂など化学品の国内取引の指標となっている。

アジア市場のスポット（随時契約）価格はコロナ禍で需給が緩んだことを背景に4月に1トン200ドルを割り込んだ。その後持ち直し、7月以降は400ドル前後で推移する。原油相場の上値が重い半面、中国のフィルムや包装資材といった石化製品需要が堅調で化学プラントが高い稼働を維持しているためだ。

ナフサのスポット価格や外国為替相場の動きから、10～12月期は7～9月期に比べ2000円前後上昇する見込み。国内の合成樹脂各社は値上げを表明しており、需要家との交渉が続いている。

国産ナフサは2四半期ぶりに上昇



画像の拡大

## サウジ産原油 一段安

サウジアラビア産の  
10月積みDD原油  
(ドル/バレル、カッコ内は前月)  
(比騰落率%、▲はマイナス)

エキストラライト	40.08(▲5.1)
ライト	40.38(▲4.9)
ミディアム	40.58(▲4.4)
ヘビー	40.58(▲3.7)

日本の石油会社がサウジアラビアから長期契約で輸入する10月積みの原油価格が全油種で一段と下落した。値下がりには2カ月連続。新型コロナウイルスの感染再拡大が続く欧米で経済活動の制限措置が拡大。石油需要の先行き不透明感が強まり、指標となるド

### 10月積み、需要先行き不透明

バイ原油価格が月末にかけ大幅に下がったのが影響した。

2日までに確定した代表油種「アラビアンライト」の10月積み価格は、1バレル40.38ドルと9月積み比べ4.9%安い。軽質の「エキストラライト」は40.08ドルで同5.1%下がった。ドバイ原油の10月の月間平均価格は前月比2%下がり、2カ月連続で下落した。日本が長期契約で輸入する原油は直接取引(ダイレクト・デイルDD)原油と呼び、ドバイ原油とオマーン原油の月間平均値に調整金を加減して価格を毎月見直す。10月積みはサウジが主要油種の調整金に割り引きを適用したことも値下がりにつながった。

# ウメモト インフォメーション

2020年 11月 4日 担当 小松



Direction for Relation

福田道路株式会社

新ロゴマークとタグライン



海野社長がメッセージを配信

福田道路（新潟市中央区、海野正美社長）が設立50周年を迎えた。新型コロナウイルスの流行を踏まえ、記念式典や祝賀会の開催は取りやめ、オンライン式典としてイントラネットに設けた50周年特設サイトで、海野社長が社員らに向けたメッセージを配信した。新ロゴマークなども発表した。

海野社長は特設サイトで「誠意ある先駆者であれ」が50周年のスローガンだ。一歩先行く視点を持ち、未来を切り開いてほしい」と社員に呼び掛けた。

ロゴマークは、同社の理念と持続可能な未来に向けた意思を、「F」の文字をモチーフにデザインした。深いブルーの線は、揺るぎない誠実さや技術が育んだ信頼の軌跡を意味している。2本のラインがカーブして3本のラインに変化する形状で、積み重ねた信頼を基盤に社会課題を柔軟な発想力で解決していく姿勢を表現した。

企業コンセプトや理念、提供する価値などを端的に表すタグラインは、「Direction for Relation」。人と空間や地球との心地よい関係づくりに貢献し、一歩先を行く視点で誠実に未来を指し示す思いを込めた。ロゴマークとタグラインは2021年1月1日から使用する。